英語③【中学校】

まとまった量の英文を書く力を育てる

学力調査の結果より

話の流れを意識しながら、まとまった量の英文を書くことに課題がある。一文から徐々に量を増やしながら、自分の考えなどについて書く活動を継続的に行う必要がある。

★指導のポイント★

1　辞書の活用を通じて、書く力の基盤となる語彙力を身に付けさせる

2　英文日記などの表現活動を取り入れ、英語で表現する楽しさを味わわせる

3　評価を通して、間違いを恐れず表現しようとする態度を育てる

辞書の活用を通して、書く力の基盤となる語彙力を身に付けさせる

まとまった量の英文を書く場合、必要となるのが語彙力である。基本的な英文の仕組みを理解しておくことが前提であるが、「いざ書くとなると、単語が思いつかない」「綴りが合っているか自信がない」という生徒が多いように思われる。つまり、文法的に正確な文が書けないというよりは、使いこなせる語彙の量に不安があり、自分が表現するを躊躇してしまうのである。

語彙力を身に付けさせるための有効な手だての一つとして、英語の辞書を積極的に用いることがあげられる。

英和辞典は、新出単語の意味調べや授業で出てきた表現を確認するために用いるだけではない。英語で文を書こうとする時に、未習語や忘れてしまった語の綴りを調べることに活用することができる。英和辞典の巻末に簡単な和英索引が添付されているものも多く、和英辞典としてもある程度活用できる。

辞書を使うことで、調べたい語のみならず、その前後の様々な単語や表現にふれることにより、自分で調べた語を用いて表現することもできる。そのことが自信にもつながり、自然に語彙力も身に付いていく。

英文日記などの表現活動を取り入れ、英語で表現する楽しさを味わわせる

「書く力」を身に付けさせるには、継続的な取組が必要である。その活動の一つとして、英文日記を書かせる方法がある。

英文日記の主な利点

- 毎日の家庭学習として有効
- 継続的に表現活動を行うことによる習慣化
- 辞書の効果的かつ頻繁な活用

日記指導は、一学年の終わりに動詞の過去形を学習した後に始めることができる。最初は「一日の生活」を英語で書く練習をさせることから始め、その活動に慣れてきたら、その日の出来事や日頃考えていることなどについて、話題を一つに絞って書く練習をさせる。多くの量を書かせるよりも、継続して活動させることが大切である。

加えて、その日に習った表現をなるべく使って書くように指導すれば、徐々に表現の幅が広がってくる。また、毎日生徒が提出する日記を添削し、返事を書いたり、日記の内容をほめたりするようにすれば、生徒が継続的に日記を書いていこうとする意欲を高めることにもなる。

＜家庭学習としての英文日記＞

この日記指導は、家庭学習の習慣が身に付いていないと、継続して取り組むことが難しい。したがって、英語学習が始まる時から、新出単語やその日に習った文の練習などを家庭で行う習慣を身に付けさせておくことが大切である。

また、日記指導以外でも、まとまった文を英語で表現し、自分の思いを伝える楽しさ、達成感を味わわせたい。例えば、ＡＬＴ宛に英文の手紙を書いたり、郷土紹介などのレポートを英語で作成したりといった内容が考えられる。

このような活動は、かなりの時間を要するが、生徒は書く目的が明確で、その活動が魅力的であれば、何とか自分の思いを伝えようとする。

また、ＡＬＴに添削やコメントを依頼するというのも有効な方法である。

＜郷土紹介レポート＞

自分が書いた英文が、一つのまとまった形になるということは、生徒にとってこの上ない喜びと、自信につながるであろう。

評価を通して、間違いを恐れず表現しようとする姿勢を育てる

まとまった量の英文を書くときに妨げになると考えられるものの一つに、「間違いを恐れる」ということがある。正確な文が書けるのも必要なことであるが、生徒の中には間違いを恐れるあまり、英語で表現することを躊躇してしまう場合も見られる。

日頃の指導でも、テストなどで評価する場合でも、その問題は文法や語彙などの「正確さ」を評価するのか、多少の間違いがあっても伝えようとする「意欲」を評価するのかを、教師自身が明確にし、作成方法や採点方法を工夫していく必要がある。

「意欲」を評価する問題では、間違いの数にかかわらず、内容が充実しており、表現しようとする意欲が伝わってくる英文に対して評価するとともに、評価の観点や規準を生徒に伝えることも大切である。

山口県の学力調査の英作文の評価においても、「英文の数」と「内容のつながりのよさ」の二つの観点で採点しているので参考にしたい。

こうした指導を通して、生徒は間違いを恐れず、英語で意欲的に表現していこうとする姿勢が培われる。